



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3632 号 2017.5.2 発行

### JKビジネス 夜の世界の少女たち

カンテレ 報道ランナー 2017年5月1日

大阪の繁華街で違法に女子高校生などを深夜の飲食店などで働かせるいわゆるJKビジネスの現状に迫ります。

【警察】「身分証見せて？」

【少女】「無い」

【少女】「普通に友達と待ち合わせしておらんからブラブラしてた」

ゴールデンウィーク直前、大勢の人で賑わいをみせるミナミの町で行われた一斉補導。

【少女】「18やし、18やし。身分証無いし！」

この少女は自分は18歳だと言い張りますが、実際は通信制の高校で学ぶ15歳でした。

大阪府警は取り締まりでガールズバーの客引きをしていた少女13人を補導しました。

今回、取り締まりの対象とされたのが「JKビジネス」と呼ばれるものです。

「JKビジネス」は18歳未満の女子高校生などが深夜の飲食店やマッサージ店などで働く業態です。労働基準法などに違反するだけでなく、警察は少女らが性犯罪に遭う恐れがあると警鐘を鳴らしています。

一体、少女たちが夜の街へ出ていくきっかけは何



なのでしょか？

大阪・ミナミのガールズバーで働く 18歳のみさき（仮名）さん。

【みさきさん】

Qそもそもガールズバーの仕事とは？

「ガールズバーの仕事はお客さんつかまえて店はいったらお酒作ったり」

Q飲まされたりする？

「客がくれるドリンクをあったら飲みますね。年齢的にもほんまはあかんけど、飲まへんことには仕事ならないんで」

みさきさんは中学1年生の時に家出をし、以来ガールズバーを転々とする日々を送ってきました。

Q家を出た理由は？

「親とあまりうまくいかんかったのもあるし、やんちゃして、万引きしたり暴走したり薬物に手を出してみたりとかやることやって何回も捕まって」

Q 这样一个世界に入ったきっかけは？

「スカウトですね。店探してない？いいところ紹介できるよって声かけられて聞いたら、ガールズバーもあれば風俗もあるしいっぱい言われて、絶対体売るってことしたくなかったから、ガールズバーいきたいっていったらその店でその日から働くようになりました」

夜を生きる10代の少女の実態。

ミナミや京橋など繁華街のガールズバーや客引きで深夜に働く18歳未満の少女たちに話を聞きました。

【ミナミの17歳少女】「17です」

Q 何年？「高校2年です」

Q 続けてる理由は？

「面白いし暇だから。ホンマに暇なんですよ毎日」

Q 親には何て言ってる？

「全然いいけど金入れてなって」

Q 一日どれくらい稼いでる？

「最高やと7万円とか」

Q 最低は？

「ゼロ。歩合制みたいな」

【別のミナミの17歳少女】

Q なんでここで働き始めた？

「家が貧しいっていうのかな。お金に困っていたっていうのがあった求められてじゃないけど自分で察して、母子家庭やから」

Q 18歳未満働いたらあかん？

「ばれんかったらいいかなあ」

一方、この少女はこの日人生初のアルバイトにガールズバーを選びました

【京橋の15歳少女】

Q 今いくつ？

「今15です」

Q 客引きはどうでした？

「外国人の人に本当にセックスできるんですか？ってきかれたりしました」

Q 怖いと思わない？

「あ、なんか人生経験」

Q 15歳で働いたらだめでは？

「ダメだと思いますハハハ」

Q 働いちゃう理由は？

「お金かせげるから」

Q ずっと続けていく？

「今日でやめるつもり。お金もらえるならいいかなって思ったけどもうやりたくない」

様々な理由で金を求める少女たち。

昼の仕事よりも多く稼げると軽い気持ちで夜の世界に来てしまうのです。

ガールズバーなどのスカウトをしていた男性によると、スカウトマンはこうした少女らの心を上手にくすぐるといいます。

【元スカウトマン】「仕事なんかしてます？て、お金の事情を聴いてお姉さんならもっと稼げますよっていった」

Q どのような娘が狙いやすい？



「だらしなさそうな娘、髪の毛ぼさぼさとか服も露出しているような子。派手な子は狙い目ですね」

少女を深夜に働かせることについては...

【元スカウトマン】「本人次第やと思います。僕らスカウトも女の子を無理やり連れて行ってるわけではないので自分がいいならやったらいいと思うJKビジネスっていうのも」

あの手この手でこの世界に引き込まれる少女たち。

家出をして以来、ガールズバーで働くみさきさんは仕事をする中でとても危険な目にあったといいます。

【みさきさん】「知らん人に拉致された時。(客に)どこどこまで来てほしいと言われて行ったら、全然知らん人たちいっぱいいて、そのまま車つれこまれて拉致されて」

深夜に外を出歩くことが多いガールズバーでの仕事。

JKビジネスは性犯罪の温床となりうるのです。

【みさきさん】「やめへんのはお金なかったら生きていけないから。一日稼いだお金が次の日一日生きるためにある。

Q未成年がガールズバーで働くことはだめだと思おう？

「いいんちゃうかなと思う。入れる店も店やし。悪いこととは思えへんな。仕事やしやると決めたことやからいいと思う」

「夢？夢はネイリストして自分の店開きたい。子供欲しい、子どもが好きあんな小さな子みたらかわいいと思う。自分の家族が欲しい。ちゃんとした」

みさきさんが働くのは午後7時半から次の日の朝5時まで。ほとんど家には帰らず、店に寝泊まりしているといいます。

Q親元へ帰ろうと思うことある？

「親元へ返ろうとは思ったことない。会いたいとは思うけど一緒に暮らすのは無理やと思う。やっぱ親苦労しているのしってるから自由にもなりたいけど親のことも助けてあげたいとは思いますが」

心にあるのは両親に対する複雑な愛情です。

「幸せです」

Qなんで幸せなん？

「朝やから。ありがとうございました」

十数時間後にはまたみさきさんを夜が待っています。



新生活から1カ月… 「五月病」 気をつけて 「戦闘」 → 「くつろぎ」 モードに 「心のエネルギー」 不足補充を 北海道新聞 2017年5月2日

爽やかな青空と心地よい風が吹く季節なのに、なんだかやる気がでない。いわゆる「五月病」は、4月に始まった新生活から1カ月ほどたった頃に起こる健康の不調だ。新しい環境に適応した心と体の疲れが、時間差をおいて出るとされ、誰もが陥る可能性がある。

五月病にならないためにはどうすればよいのか、探った。

新入生や新入社員など、これまでと違う環境の生活を4月から送っている人は五月病への注意が必要だ。「メンタルアシスト北海道」代表の小林幸太医師＝産業医、精神科医＝は「学校や職場に慣れようとするとき、心や体はいわば『戦闘モード』になっている。休息がないままこの状態が続くと、体や心に変調を来してしまう。これが『五月病』です」と話す。頭痛、下痢、便秘、不眠、不安、気分の落ち込みなど、心身にさまざまな症状が出る。

「気温や日照時間など自然環境の変化によっても、体の変調を感じる人がいて、実際、春先や秋口の体調不良は多い」（小林医師）。この時期に流行する花粉症の症状の一つに「集中力の低下」があり、五月病の原因の一つとなっている可能性もあるという。

また、小林医師は「何事にも手を抜かず一生懸命でまじめな人が五月病になりやすい」と指摘する。

小林医師によると、予防のポイントは「くつろぎモード」の時間をいかに取れるか、という点。1カ月に数日は意識的に「何もしない日」を作ったり、趣味などに没頭したりして過ごすのが有効だ。仕事の心配事などが頭から離れない時は、それを紙に書き出すだけでも思考の整理や不安を発散する効果があるという。

生活リズムを崩さないことも重要だ。新しい環境に慣れようと気持ちに余裕がなくなりやすい時期だからこそ、同じリズムで生活すると体も心も安定するという。毎日の起床と就寝の時間を乱さず、帰宅してからの家事や読書など、今までの習慣を継続するとよい。

脳が新しい環境を「日常だ」と認識して「適応」できるまでに時間がかかる。出社や登校には1～2週間、新しい人と同じ空間にいることやコミュニケーションをとるのに1～2カ月、仕事自体には3カ月ほどだという。小林医師は「適応を焦らずに『待つ』意識を持つことで、心にゆとりを持たせることが大切だ」と強調する。

一方、大型連休を前に、「新生活への適応で使った『心のエネルギー』の不足が五月病を招くこともある。連休中に補充しましょう」と説くのは北翔大の飯田昭人准教授＝臨床心理学＝。例えば、家族みんなで楽しんだり、友人と旅行したりするなど普段できないことをするとよい。また、「連休を結局何もせず無駄に過ごしてしまった」という自責で五月病になることもあるため、「充実した休みだった」と思えるように過ごすのが効果的だという。

さらに飯田准教授は「連休明けに学校や会社に行きたくないのはむしろ健全な思考。深刻に捉えないようにしよう」と呼びかける。

気にしすぎると悪循環に陥り、どんどん気分が落ち込んでしまう。不安や心配になったら、友人など誰かに話すと心のバランスがとれる。直接会えないなら、電話や会員制交流サイト（SNS）でもいいという。（岩内江平）

## 五月病にならないためには

1カ月に数日は「何もしない日」を設ける



生活リズムを大きく変えない



不安、心配があれば誰かに相談する



学校や職場に「行きたくない」と思うのは「普通」のことだと割り切る



逆ギレされた時の対処法 アピタル・田辺有理子

朝日新聞 2017年5月2日

++ 相談 ++

病院で新人の指導係になりました。指導していると、その新人が途中から不機嫌になってしまうのです。もう何度も同じことを説明しているのに、「習っていません」などと言われて、いわば「逆ギレ」です。私だって忙しい中で相手のために思って教えてあげている

のに、その態度はないんじゃない？

この「逆ギレ」については今さら説明しなくてもイメージできると思いますが、逆ギレされる方も、不快ですし疲弊しますよね。今回は、人はなぜ逆ギレするのかについて考えてみます。

「逆ギレ」について、主要な国語辞典によれば以下のように説明されています。

・「それまで叱られたり注意を受けたりしていた人が、逆に怒り出すこと」

(広辞苑第6版, 岩波書店, 2008)

・「なだめている人、または怒られている人が、かっとなって怒り出してしまうこと」

(大辞泉デジタル版, 小学館, 2007)

思い返せばこの言葉はずいぶん前から使われていますね。いまどきの若者だ

からという話ではなく、以前からこういう人はいたのです。今回は新人指導ですが、部下が意見を述べたり提案したりすると逆ギレする上司という構図もあるように思います。

怒りは、自分が脅かされた時に身を守るための防衛機能です。動物の恐怖に対する反応として、闘争逃走反応 (Fight or flight response) があります。これは、生命の危機が迫っている時に、交感神経が優位になって、戦うか逃げるかを瞬時に選択するというものです。その特徴に照らしてみると、動物が敵を威嚇するように、逆ギレする人も脅威に対して戦おうと怒りを発動することで自分自身を何とか保っているのかもしれない。

仕事に就いたばかりの時は、何でもうまくできるわけではありません。新しい環境の中、知識も技術も未熟で、不安や緊張が続きます。加えて、誰かに注意される、指導される、叱られるなど、言ってみれば他人に怒られることに慣れていない人も多いでしょう。

アンガーマネジメントは、怒ってはいけないというものではなく、怒るなら上手に怒ることを目指します。そういう意味では、逆ギレは適切な怒りの表現とは言えません。でも、その時点では、ほかに適切な対処行動を持っていないとも考えられます。プライドがあって仕事ができない自分を認められなかったり、でも自分に自信がなかったり、不安の表れだったりするのでしょう。

それでは、どうすれば良いのかと言えば、本人がその表現パターンを変えようとしないう限り、私たちは相手を変えることはできないのです。私たちが変えられるのは、事象の捉え方や、相手に対する関わり方です。

先ほどの言葉の説明に従えば、逆ギレされたと感じたということは、そもそもは自分が怒っていたと言えます。仮に怒っていたのではなく教育的に指導していたのだとしても、相手は脅威に感じていたのかもしれない。教える側も限られた時間の中で焦りも出ますし、看護師なら患者の安全が危ぶまれる状況になったら悠長に見守っているわけにはいきません。つい語調が強くなってしまうこともあるのではないのでしょうか。指導係であれば、相手への期待感があるがゆえに怒りが生じることもあります。

▼相手への期待感が怒りの引き金になるかも

(<http://www.asahi.com/articles/SDI201703312566.html>)

私たちは自分の言動を変えることができます。相手の反応をみて余裕がないと思ったら、まず自分が落ち着いて一段優しい口調を心がけてみましょう。そして、せっかく教えてあげたのに逆ギレされたという時は、相手はきっと自分を保とうとしているのだと思えば、腹立たしさも多少おさまってきませんか。



## 脳卒中の重度まひ回復目指し…最先端リハビリ施設、11月に開設

読売新聞 2017年5月1日



脳波から読み取った意思通りに体を動かす装置などを使い、治療が難しい重いまひの回復を目指す次世代リハビリテーション施設「スマートリハ室」の開発に、慶応大などが乗り出す。日本医療研究開発機構の支援で、脳卒中リハビリのモデル施設作りに取り組む。

開発は大阪大や国内7企業など計19団体が参加。神奈川県藤沢市の慶大キャンパスの隣に11月開業予定の民間病院を拠点にして、研究を進める。目玉は、脳と機械をつなぐ「BMI（ブレイン・マシン・インターフェース）」と呼ばれる技術を応用したリハビリ装置。脳波や脳血流などから動作の意思を読み取り、まひした部位を機械で動かす訓練を繰り返し、傷ついた神経回路の修復を図る。

慶大の臨床研究で手の指に付けた装置でリハビリを行ったところ、指が全く動かせなかった患者42人中29人が動かせるようになった。

スマートリハ室にはこのほか、脊髄に電気刺激を与えて歩行を支援する装置や、足首の動きを補助する装着型ロボットなどをそろえる。こうした次世代リハビリを研究する企業や大学は増えているが、大きな研究拠点は初めて。参加企業は、各装置の5年以内の実用化を目指して臨床研究を行う。

## 「妊娠菌」付き米 ネットで高額売買 医学的根拠なし 毎日新聞 2017年5月2日

「女性が妊娠しやすくなる『妊娠菌』がついている」と称した白米がインターネットで売買されていることが分かった。「妊娠米」と名付けられて1合当たり最高1500円で出回るが、毎日新聞の取材で、出品者に妊娠経験がなかったり、購入者にサプリメントのカタログが送られたりする事例が確認された。「妊娠菌感染」に医学的根拠はなく、専門家は「不妊に悩む女性を冒とくする詐欺行為だ」と憤っている。【鳴海崇】

メルカリで販売されていた「妊娠菌つき」の白米と手書きの絵。商品説明で米の分量は「1合」だったが、右側の袋には半分以下しか入っていないかったという

「妊娠菌」付き商品が売買されているのは、フリーマーケットサイト「メルカリ」。白米のほか、サプリメントや手描きの絵、アクセサリも並ぶ。商品の販売ページで、妊娠菌は「女性が妊娠時や出産前後に触れたものにうつり、それを譲り受けて妊娠する人が続出している」と紹介されているが、日本生殖医学会は「過去に研究されたことはなく文献も存在しない」と、菌の存在を否定する。母子手帳や陽性反応が出た妊娠検査薬の画像を添付して効果を信じさせようとする出品者が多く、「6人の子どもがいるので強烈菌」とアピールしたものもあった。



妊娠米の具体的な使い方として、少量を袋に入れてお守りとして持ち歩いたり、炊いてからおにぎりにして食べたりすることが勧められている。しかし品質や衛生状態は保証さ

れておらず、安全性は無視されたまま出品されている。価格は1合500円前後が相場で、「友達が妊娠米をもらって8人妊婦なう」といった説明が添付される。関係者によると「2013年以降、数百件の取引が成立した」という。

そもそも妊娠米と普通の米を見分ける方法はない。今年3～4月には「子宝祈願で有名な福岡県の神社に夫と30キロ持ち込んでお清めしてもらった」と称する妊娠米が1合1500円で3件販売された。「30キロをどうやって運んだのか」「領収書で証明できるか」と真偽に関する問い合わせが殺到すると、出品は取り下げられた。

実際に妊娠米を1合500円で数回販売した関東地方の20代女性は、取材に「ずっと独身で妊娠経験はない」と証言。しかし、販売ページには「私も妊娠米のおかげで子供を授かりました」とうそを書いていた。「友人から『簡単な小遣い稼ぎになる。妊娠してなくても平気』と聞いてまねをした。あくまで験担ぎ。買えば前向きに妊活に取り組めるのでは」と話した。

1回購入したことがある東京都の30代女性は「不妊治療を4年間続けて身も心も耐えられなくなり、最後の賭けで何でも試してみようと考えた。1合のはずが、3分の1しか入っていなかった」と怒りをあらわにする。商品が届いた1カ月後に「妊娠しやすくなる」とうたうサプリメントのカタログが自宅に届いたため、不審に思い送付した業者に問い合わせたが「営業リストの作成経緯は明かせない」と回答されたという。

### 悪質な商売、許せない

吉村泰典・慶応大名誉教授（元日本産科婦人科学会理事長）の話 妊娠菌に科学的、医学的な効果があるはずもないし、少額でも詐欺と言っているほど悪質な商売だ。不妊症や不育症に悩む女性は、わらをもつかむ思いで「妊娠や出産に良いことなら何でもやりたい」と考えがちだが、そうした人の弱みにつけ込む行為で絶対に許せない。崇高な妊娠について「菌が感染する」という表現をすること自体が非常に不謹慎。妊娠米は不衛生に扱われた恐れがあり、絶対口にすべきではない。

### 社説：交流サイト被害 ネット教育の充実こそ 京都新聞 2017年05月02日

インターネット上で、会員が互いに情報発信したり、複数で連絡を取り合ったりできる「コミュニティーサイト」をきっかけに、児童買春などの犯罪に巻き込まれた18歳未満の子どもが昨年1年間で1736人に上り、2008年に統計を取り始めて以来、最多だったことが警察庁の調べで分かった。

被害者にはネットの危険性や犯罪への認識不足もみられる。ネットに関する教育や、悪質なサイトへの接続を制限するフィルタリング機能の活用を急ぎたい。

警察庁によると、被害者の94・8%が女性で、16歳が450人と最多で14歳以上が大半を占めた。罪種別では、淫行など青少年保護育成条例違反の被害者が662人で最も多く、だましたり脅したりして裸の写真をメールで送らせるなどの児童ポルノが563人、児童買春が425人と続いた。

特に、児童ポルノは昨年、全国の警察が摘発した事件の被害者が1313人で過去最多を更新し、被害の拡大がうかがえる。

サイト種類別では、面識のない者同士がつながる「チャット系」の被害が減る一方、複数の友人らと交流できる短文投稿サイト「ツイッター」など「複数交流系」の被害が増えたのも特徴だ。

被害者がピーク時は1200人を超えていた「出会い系サイト」は、規制法などで18歳未満の利用が禁止されたことから、昨年は過去最少の42人まで減った。コミュニティーサイトでは同様の規制は難しいとされるが、警察庁は、サイト事業者らで構成する協議会を設立し、被害を防ぐ取り組みを始める方針だ。事業者にも最大限の努力を求めたい。

被害者がサイトにアクセスしたのは9割近くがスマートフォンからだった。青少年インターネット環境整備法は、携帯電話会社にフィルタリングサービスの提供を義務付けてい

るが、今回の調査では状況が把握できた子どもの88・2%が利用していなかった。

さらに、被害者の半数が学校でネットの利用法を学んだか「覚えていない」と回答している。子どもたちを守るため、まずは保護者がフィルタリング機能を理解し、適切に利用することが必要だろう。近年、大学生らによるサイバー防犯ボランティアも広がっており、活躍が期待できる。

ただ、通信手段は多様化する一方で、規制と監視だけでは追いつかない面もある。子どもたちが正しくネットを活用できる教育を何よりも充実させたい。

## 社説：民生委員の欠員 活動充実へ環境整備を 京都新聞 2017年05月01日

民生委員が地域でどんな活動をしているか、ご存じだろうか。

独り暮らし高齢者や一人親、障害者などの福祉的支援が必要な家庭を見守り、相談相手となる。

こうした家庭の実情を行政など専門機関に伝える「橋渡し」の役割も担う。日常生活に悩みを抱える住民にとっては心強い存在だ。

ただ近年、なり手不足が常態化している。昨年12月の委員改選では定数（全国）約23万8千人に対し8800人余りの欠員が出た。京都府内でも福知山市や舞鶴市などで44人が足りず、2596人の枠を満たすことができなかった。

民生委員は厚生労働相が委嘱する特別職の地方公務員で、任期は3年。通信費など活動実費の支給はあるが報酬はない。見守り・相談活動のほか研修や会議、行事への出席などで忙しい。府内の平均年齢は64・9歳、70歳代も多い。

物理的な負担に加え、地域の「無縁化」がなり手不足に拍車をかけている。高齢化で自治会などの機能が衰え、人間関係が希薄化している。対象となる個人や家庭の事情にどこまで踏み込んでいいのか戸惑う民生委員も少なくない。

守秘義務があるため活動上の悩みを他人に相談しにくい現実もある。自治会長の要請で民生委員を引き受けたのに、その自治会長が短期間で交代してしまい孤独感に陥る事例も少なくないという。

地域で孤立化しがちな住民を支える立場の民生委員がかえって疎外感を抱くようでは、役割を十分に果たせない。負担を軽減し、見守り・相談など本来の活動を充実させる環境整備が欠かせない。

府民生児童委員協議会は八幡市や与謝野町などで、民生委員の業務をサポートする「支援員」を設ける試みを行った。この中では支援員が個人情報にどこまで関われるかなどの課題も見つかった。検証を進め、民生委員の活動を支えられる具体策につなげてほしい。

自治体が住民や事業者の協力を得て設けている高齢者や子どもの見守り組織などとの連携で、民生委員の日常活動を地域全体でフォローする取り組みも必要だろう。

児童虐待やひきこもりなど家族が抱える問題のほか、災害時の安否確認や避難誘導といった安心安全に関わる課題まで、民生委員の守備範囲は広がっている。こうした活動実態や役割の重要性があまり知られていないことも、なり手不足の一因になってはいないか。

民生委員制度が発足して今年で100年。その存在意義を社会全体で考え直す機会としたい。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

